

吹田市 佐井寺風土記こぼれ話(五)

編集部

(天道)信仰道と「おかめ茶屋」

「抑々当山田寺の略伝は、人皇四十五代聖武天皇御宇天平7年(七三五)今より千二百二十九年僧正、行基こゝに至り給えば赫々たる瑞光あり、即ち其地を掘らしめ給えば、梅壇香木の大悲の尊像を感得す。

これ本尊、速やかに此の由を奏聞し給えば、詔を得て伽藍を草創し、坊舎六〇余院の梵刹となり、禁裏御読教(みどくきょう)を執行し給う、二十一ヶ寺の其の一つなり(拾芥集に見ゆ)下略。以上は撰津名所図会から。

後、戦国時代に兵火に遭い、昭和九年には室戸台風の余波で倒壊したが、当佐井寺住民を始め、多くの信徒達の協力で現在の立派な本堂が完成した。

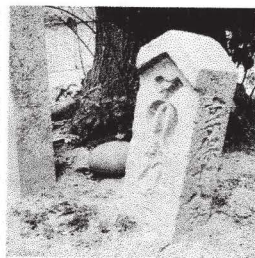
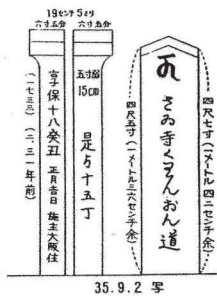
当寺は昔から、靈験あらたかな寺として信仰が篤く、参詣者が後を絶たなかった。

当佐井寺に来るにしても旧亀岡街道に沿うて、岸部と天道とより他に道が無かった。岸部からの分は「信仰道と狐坂」と稿を改めて誌すことにして、天道から「信仰道とおかめ茶屋」の題名にもとづいて始めよう。

と云っても皆さんには判りにくいであろうから、略図を示しておこう。



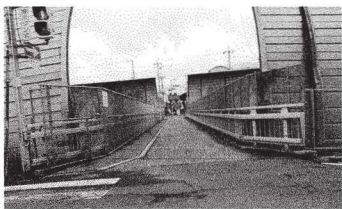
天道道標 車に折られたのか上部のみが、吹田市立博物館に展示されている。一時佐井寺境内に置かれた時の写真



この道標から北へ行くと「原(はら)地区」になる。愛宕山裾を右に見つゝ下ると「山の谷」今は名神高速道路の直上に架かる「俗位橋(ぞくいばし)」を渡って、

一キロ程北へ進むと三十メートル程の高さの尾根伝いになり、少し平(たいら)地に太い松の根株が残っている。(皆様にはお判りになりにくいと思うが略図を記して御勘弁願いたい)此所が通称「おかめ茶屋」という。

俗位橋(ぞくいばし)



東に向かつてうしろは手当のよく行き届いた延々と続く大竹林、前は断層型の段々畑で、現在は雑木雑草の生い茂るがままで見通しもきかない、現在の通路と

大坂方面に代々つづいている商家の一人息子で、幼少の頃から和漢の学を修め、長じてはひたすら家業にこそしめ、信仰も人一倍篤く、参詣の往き還りには、必ずこの茶店に足をとどめ、娘ともいつとはなしに親しい間柄となり、やがては人目にも立てば、口の端にも上りはしたが、話題を賑わせたのも束の間、好事魔多し：とやら、眉目秀麗の若人もプツリと姿を見せなくなつた。

風の便りによれば、師走も迫る十三日「事始め」の朝、父の急死に遭い、一時は途方に暮れたが、自らを鞭打って励んだけれど手違いが多く、却って雇用人達の餌食に利用され、嵩む債務に耐えかねてか、姿を消して了つたという。

かくと詳しい事情を知らぬ娘の、痛ましい憔悴には手の施しようもなく、月日は流れた。

二人の事情をよく知っている人々は、又しても弾く、帰らぬ人を恋う「想夫憐」の調べに、つい涙を誘わるゝのであつた。

二人の愛情もついに実ることもなく、本当に短い果敢ないものであつた。

「附記」吹田市当局へお願い

此の辺りの地形は、ブルドーザのため、日々に変貌してゆく運命にあり、岡辻土地の住宅地として開発されているが、この附近一帯を昔から、里人が称えてい

云えば、約三十センチ程の柚道となり、竹林の側には有刺鉄線が張りめぐらされ、余程注意しないと引かかる物騒なもの、数十年前までは俗に茶屋跡であつた。四尺道(一メートル二十五センチと称えて、当時としては立派な参詣道であつた。

五十年前のうしろは巨きな赤松林で鬱蒼と茂つて、前の段々畑はいつも綺麗に耕され、何ものも遮るものとしてなく、生駒山脈も手に取る如くに見え、菜の花の咲く頃ともなれば、山麓迄黄色の毛氈を布いたよううつとりとさせられたものである。

茶店から観音様へ行く迄の此の辺り一帯に亘り、菜の花の他にも桃、桜の花、蕨狩り等の桃源郷でもあつた。秋になると、後ろの赤松林の斜面(現在は竹林)は茸狩りに賑わい、紅葉狩り等々参詣の人々を随分と楽しませ、善男善女も景色の勝れた、この茶店に一体みしてから、観音様へお参りするのにならわしだった。

此所の茶店の主を「おかめ」と云い、以前には相当の由緒ある某武家の妻女らしく、いつの頃よりか、草深い此所へ移り住むことゝなつた、娘も母に似てきりよくう良し、学問の素養も豊に、茶の湯生け花はもとより琴、裁縫等の諸芸に勝れ、折々には美しい琴の音の漏れる日もあり、参詣の人々の足を止めたことも屢々であつた。

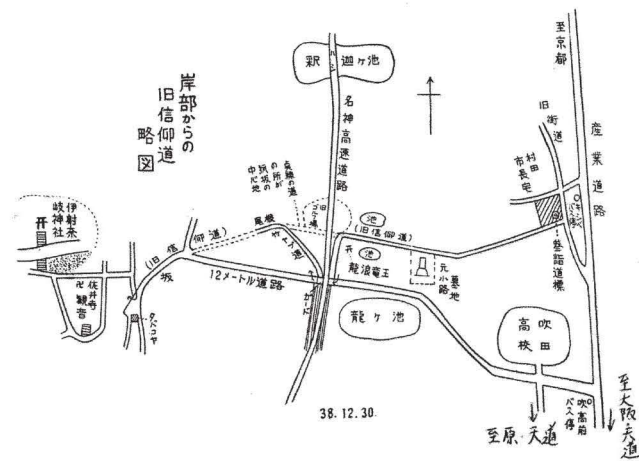
月日の経つにつれて近郊近在からの参詣者もふえ、その人々の群れに交じつて一際目立つ若人があつた。

た「おかめ茶屋」の名称だけは、市当局の配慮でぜひとも残しておいて欲しい。また小公園として永くその跡をとどめたいものである。

それから道標のことで一言申しておきたい。昨年の四月頃この道標が、折れて倒れていることに気附いたので、街角の野鍛冶屋さんに尋ねると、つい最近のこと、自分の知らないうちに倒れて居つたそうである。曲がり角にあつたため、トラックが倒したのであろう。現在は大島氏宅の角へ建て、おいて下さつて感謝している、さる日倒れてある道標を見た老翁が、是非にと懇願されたが、断つて下さつたと知り、大変嬉しかった。当市の将来の重要文化財の、一つとも目されるこの道標を、市当局の手によって、折れた箇所を継いで貰つて、早急に安全な場所へ復元して欲しい。右二項目とも、ぜひとも実現して下さい。お願いして筆を擱く。(三九・五・二六)

(岸部)信仰道と狐坂

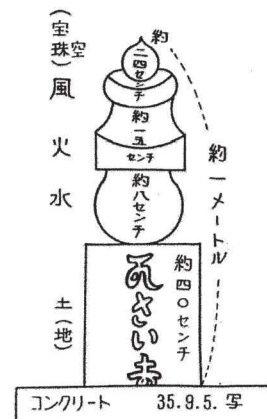
昭和三十八年師走も迫る三十日、産業道路沿い「岸部のバス停留所」を降り、北へ曲がること約十五メートル、旧街道筋南に当る所が、村田吹田市現市長宅である。(註)村田氏宅は、昔から吹田は申すに及ばず、近郷近在から「村田の饅頭」の味で知られ、日々その注文で追われた菓子製造業の家柄でもあつた。



同市長宅後ろの辻の曲がり角に、五輪塔に似た道標がある、此所が佐井寺観音様への入口である。道標の建立年号は刻まれていないが、風化の度合から考えると、天道入口の享保年間の道標よりは、余程

から構成され、生命の尊さを訴えているものと称えられている。「土」の梵字は此所がすでに、み仏のお膝元である(有難いこと)ことを示したものであるとか。天道からの信仰道の道標といふ、岸部からの道標といふ、心ない者のために両者それぞれに、大損傷を受けていることは嘆かわしい。吹田市当局もこれら数々の、吹田市としての貴重な文化資財を修理復元して、永久に保存顕彰して下さる日の一日も早く、実現することをお願いしたい。永々と脇みちに外れたことをお許し願いたい。南、中、北河内、北摂辺りからの信者達は、この道標に沿って北へ行くこと約一キロ余、徐々に坂道となり突き当たりを左へ曲がる。以前は真つ直ぐに登れたのであるが、今は高速道路の盛り土のために、遮断されてしまっている。詮方なく竜(たつ)ヶ池まで降りてガードを抜けるのと、すぐ道路に沿って坂を登って、旧称「狐坂」へ戻るののである。藪は残ってはいるが、三十メートル位の尾根は寂しい凄い面影は見られず、北摂の山なみが見え、見晴らしの良いところではあるが、夜になると狐が出没横行し、「いや正体を見届けたとか、まだ見たことがない」とか、種々取り沙汰されて、二十年前頃まで夜は両村の人々もあまり通りたがらないことも肯ける。恐ろしさに夢遊病者の如くさまよい、息も絶

新しいのではなかるうか。附近の古老の話によれば、数十年前から見ると、一尺五寸(約四十五、五センチ)程土に埋もれているものである。一説に、誰かの悪戯で石が折れ、修理もしないでそのまま立てられたので、短くなっている...、というのが真相らしくて肯ける。たとえ短かくなっても鎌倉室町辺りの五輪形式が残されていることは、懐かしい限りである。



五輪塔は鎌倉室町頃には、よく流行しておつたものらしく、上から空(宝珠)風(半月)火(三角)水(円)土(四角)で、五大(行)にかたど(象徴)つた、五つの石を積み重ねたもの。五行の説は古代中国の思想で、地球が宇宙の中心で、太陽や月は地球のまわりを回って、宇宙の万物を造る元(もと)となる、五つの元素(空・風・火・水・土)

え絶えに帰りついた人のあることも聞いている。その石碑の内の二三を拾ってみよう。

第一話

今から六十年前のこと、吉志部神社の秋祭り(それを御縁(ごえん)という)に、例年の宮相撲が催されるにつき、自分(某口述者の他二三の友と某知己の宅へ招かれ、一同歓待を受けたのは良かったが調子に乗り過ぎて、とうく夜も十一時を過ぎた頃に、みんな引き揚げた。私はあまりお酒を飲まないで、その代わりとして、手製の焼きもち包みをお土産にいたゞいた。他の友達は前後不覚の有さまで、しどろもどろの足運びに、私が介添え役代わりとなり、随分と困らせられた。いよく凄い平常から気持ちの悪い狐坂にさしかかったところ、友の内の一人が溝のある所で、バツタリと倒れた。「しつかりせい」と私は、友を抱えて起こそうとして、ふと前を見ると、何と美しい、目はバツチリと大きく、色は白く、大柄の杵形模様のでやかな女が、自分の目の前に佇んでいるのに驚き悲鳴を挙げると、先へよるめき乍ら歩いてきた友達がすぐに引き返して来て、自分の背中をきつく叩かれて、始めて正気に立ち返り、気が付いてみると、先程のきれいな女の姿はもう消えて了って居らない。ふところに入れてあった、土産に

貰った焼き餅包みが、無くなっていることに、始めて気がついた。(三八・八・二八)

第二話

某伯父さんが、岸部への用足しから帰る途中龍浪竜王(たつなみりゅうおう)社手前、坂道の池の辺りまで来ると、坂の上辺りで何やら賑やかな気配がするので、不審に思いつゝ上ってゆくと、常に見覚えのある田圃が、綺麗な公園になっており其所に「覗きからくり」の出し店が並んで、しきりにムチで叩いて音頭を取っている。どうもおかしい具合だ……と考えつき、一先ず腰を下ろし。煙草を一服吸うや否や、今まで賑やかだった風景は忽ち消え失せて、元の見覚えのある田圃に変わってしまった。そこで始めて狐の仕業であったことが判り、足に軽い慄いが出て、しどろもどろに、無我夢中で我が家に辿りついた。(三九・一一・一五)

第三話

年はとつても、女色を好む方々のあつたことは今も昔にも変わりはなかつたらしい。岸部村のある家に、以前から自分の好きな若い娘さんを、困いものにしてはお爺さんが居た。殆ど毎晩のように佐井寺村から、遭いにゆくのを楽しみにしておつた。ところが或夜、いつもと変わりなく狐坂に差しかゝ

信仰道の現況

今回も二十回生浅野倉平さんが両方の信仰道を歩き、多数の写真を撮影して下さいました。改めて御礼申し上げます。佐井寺観音や伊射奈岐神社などの神社は往時の面影をそのまま伝えていますが、周辺部の道筋、田畑や竹林、雑木林などの里山は宅地開発の波の中で大きく変わってしまい、昔の信仰道の面影は全くといって良い程残っておりません。藤井氏が昭和三十九年に歩かれた「おかめ茶屋信仰道」は当時でも茶店の在ったという辺り、竹林の傍は細い柚道で歩きづらい場所があり、殆ど人は通らなかつたようです。

佐井寺観音への参詣に天道や岸部経由の信仰道が使われなくなった大きな理由としては北大阪電鉄が大正十年十月に千里山駅を開業したことが挙げられます。開業時に発行された北大阪電鉄のパンフレットには千里山停車場附近の名所として「東北八丁(佐井寺村入口迄の距離?)佐井寺観音(山田寺)」とあり、千里山駅から徒歩二十分足らずで行き着けます。天道道標からは十五丁、省線の吹田駅から歩けば、さら遠くなるので、爾来千里山が徒歩での参道入口になったと考えられます。小生が千二小に入学したのは昭和二十二年ですが、ガードをくぐってすぐ左手に「(多分)佐井寺観音入口」と書いた白塗りの、目に付く木造道標があつたのをはつきりと覚えております。(奥田記)

ると、藪の中からきれいな娘さんが、もえぎ(萌黄)の風呂敷包を背負うて、出て来ると。パツタリと出合つた。お爺さんは、「今頃の遅くからどこへ行くのか……」と不審に思つて、たずねると、正音寺(岸部小路村のこと)の「こう屋」(染物屋)へ行くところ……と答える。そんなら一緒に行こうと同行を促すと、快諾してくれたので安心してついてゆくと、チョツとの油断をしている隙に、娘は姿を消してしまつたので、始めて自分も、狐にだまされたことに気がついて、足がふるえて中々に止まらなかつた。(三九・一二・三〇)

この話は、数十年前迄はよく語り伝えられていたもので、実際の経験談も交えての当時の人々の話題を賑わしたことであろう。

現在は道路も出来、漸次交通機関もよくなり、最近では名神高速道路が完成し、毎日幾万台かの車が往き来して殷盛を極めている。

高速路を挟んでの此の辺り帯はゴルフ場であつた。此所を開設当時(十数年前)と、道路建設工事中にも、沢山の須恵器の破片も出てきたそうである。

この狐坂は岸部の地区に属するが、隣村地区の関係から、知己姻せきの間柄も濃く、凡ゆる面に於ての交通の多かつたことが窺われ、わが佐井寺の貴重な伝説の中のひとつとして、これも永久に温存しておきたいものゝ一コマである。(三九・七・一六)

天道信仰道入口

電柱の向う大島氏宅の角に天道道標がありました。トラックに当てられ上半分だけになり一時佐井寺境内に置かれましたが、平成二十二年以来吹田市立博物館に寄託され展示されています

この先の原地区は昔の道筋がそのまま残っています。



吹田市立片山中学校

俗位橋を渡るとすぐにあります。この道の右手は竹谷町、左手は上山手町です。藤井氏が訪れた昭和39年頃には既に一帯整地作業が行われていたそうです。





佐井寺へのゲートウェイ
 佐井寺南が丘公園を過ぎて
 総合運動場前を通る、広い道を
 渡り、北へ進むと南ヶ丘保育園
 がありその筋向いに地下道入口
 があります。入口の先に道路が
 あるのがお判りでしょうか。出
 口はこの道路より三メートル程
 下に有り、ここからが旧佐井寺
 地区公民館があり、ここ迄は
 佐井寺南が丘です)



地下道出口



地下道入口



道路上より佐井寺を望む
 地下道出口の上を通る道路に
 上ると旧佐井寺を、一望の下に
 見渡すことが出来ます。
 旧佐井寺の道筋は全く変わっ
 ていないようです、あちこちに
 「道が細いので運転注意」との
 看板が見られます。建て替えら
 れた家も多いのですが昔のまま
 の立派な門構えの邸宅も、沢山
 残っております。



望遠で撮った佐井寺

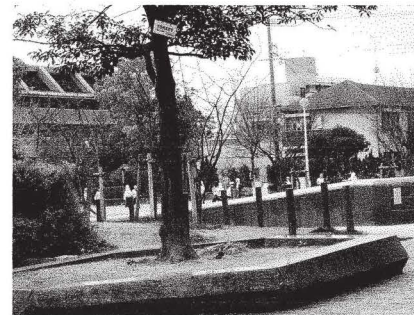
此所まで来れば佐井寺
 観音はもうすぐです。



推定おかげ茶屋跡
 片山中学校の前を通りすぐ
 左手の場所です。
 住宅が建ち並び往時の面影
 は何一つ残っておりません。



登坂
 立派な遊歩道が出来て
 います。

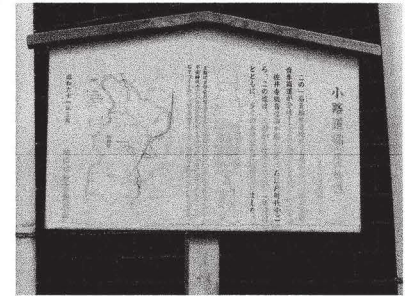


佐井寺南が丘公園
 立派な公園がありました。
 残念乍らこの近くに「おかげ
 茶屋」があったとの立て札は
 無かったようです。
 公園周囲の町名は「佐井
 寺南が丘」新開発地で唯一
 佐井寺の名が残ります。



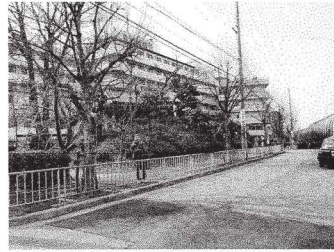
公園の周囲には有名和食店
 「旬菜山崎」、関西スーパー、
 デイトにも良いベーカリー
 カフェなどもあります。

岸部信仰道入口
 正面が村田元吹田市長宅、正面に小さく道標を立て札(下右拡大)が写っています。「村田の饅頭」は本日休業みたいです。左が信仰道、右直進は旧亀岡街道です。残念乍ら昭和61年3月吹田市教育委員会が設置した立て札は文字が薄れて読み辛くなっています。

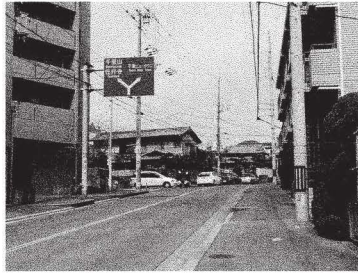


岸部小路道標

名神高速に沿って協和会病院前を回り道



12メートル道路、ニュータウン方面と旧佐井寺分岐点手前



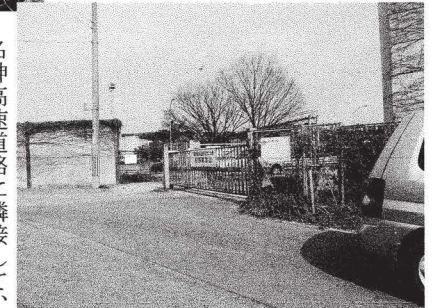
12メートル道路に出てガードをくぐる。向かって左側へ行くと「狐坂」のあった辺り、「五月が丘南」と名付けられた立派な住宅地が広がる。



家が建て替えられても岸部小路道標からは、昔の狭い道筋が残っております。名神高速道路で信仰道は完全に分断されています。



名神高速道路に隣接して、吹田SA(サービスエリア)道路保全基地が広がります。



佐井寺地図(現況)

